

キャラクター名	プレイヤー名				
ミカミ（闇靈）					

メインクラス	シーフ	Lv.1:		レベル	10
サポートクラス	サムライ	Lv.1:	ガンスリンガー	性別	女性
称号クラス				年齢	24
種族	ヴァーナ			境遇	義理の親
出自 (効果)	冒険者			目標	人探し

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	16	18	22	6	10	6	9
ボーナス	5	6	7	2	3	2	3
クラス修正	1	2	1	0	1	1	0
他修正							
能力値	6	8	8	2	4	3	3

HP	94
MP	73
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	キャリバー	10m	0	13	0	0	0	0	0
左手	ガンパード	-	-	15	-	-	-	-	-
頭部									
胴部	アボイドクローカー				1	9			
補助	ソリッドブーツ					3			
装身具									
能力値			8	0	8	0	3	12	11
スキル			5	10			1	5	
その他						10	5		
総計(右)			13	23					
総計(左)			13	25					
総計(両)			13	38					m
ダイス数		3 d	2 d	3 d					

能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	4		4	+ 3 d
トラップ解除	8	1	9	+ 3 d
危険感知	4		4	+ 2 d
エネミー識別	2		2	+ 2 d
アイテム鑑定	2		2	+ 2 d
魔術判定	2		2	+ d
呪歌判定				+ d
鍊金術判定				+ d

現在重量： 7

最大重量： 18 所持金： -3066 預金・借金：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
オーバーパス	★	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果： 狼族、移動力+5m、行動値に+1、封鎖判定を無視 R1P93								
ピアシングストライク	2	5	DMR直前	-	自身	-	-	
効果： DMGに+ (SL)D								
スペシャライズ	5	-	パッシヴ	-	自身	-	魔導銃	
効果： 制限武器を使用時、命中と武器DMGに+SL R1P120								
キャリバーガンパード	5	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果： 双銃、キャリバーの攻撃力+SL v *3 R2P34								
キャリバー	★	-	アイテム	-	自身	-	-	
効果： アイテム：キャリバーを獲得 R2P34								
マスター：魔導銃	★	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果： 魔導銃の命中判定に+1D R2P36								
ワンコインショット	5	4	DR直前	武器	自身	-	-	
効果： 攻撃対象のDEFとMRを (SL*3) 減少してダメージを与える								
ファニング	3	5	メジャー	武器	選択	命中	-	
効果： 1+SLvの対象へ攻撃する R2P33								
ウェポンフォーカス	★	-	パッシヴ	-	自身	-	魔導銃	
効果： スペシャライズが有効時、DMGに+5 PSG P85								
ランニングショット	★	5	ムーブ	-	自身	-	移動	
効果： 戰闘移動を行い、ラウンド中の回避判定+1D PSG P97								
カウンターショット	★	-	判定直後	武器	単体	-	シリオ1回	
効果： 命中RACをHITで行い、成功時に攻撃を無効化する								
バタフライダンス	★	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果： 回避達成値に+1D R1P120								
ドッジムーブ	1	2	回避	-	自身	-	盾無し	
効果： 回避達成値に+SLv+2 R1P120								
バレットマーク	★	ワンコインショット		自身	-			
効果： 1点でもHPダメージを与えた時、対象のDEFとMRをシーン終了まで-15								
ファイトバック	1	5	リアクション	武器	単体	命中	シーソSL回	
効果： 射撃・魔法攻撃のRACを命中対戦で判定し、成功時にCL*10のHPロスを与える								

「あれは俺が30の頃だったか、旅の途中に山賊に襲われたらしきヴァーナの行商団を見かけた。既に僅かに残った積荷と死体だけだったんだが、その中に俺と同じアウリル(狼族)の赤ん坊が生き残っていた。頂いた積荷の代金としては高くつくが、俺はこの子を育ててみることにした。俺の冒險者としてのノウハウを誰かに継がせるのも悪くないとも思ったからだ。余余曲折あったが、同じアウリルなのに幸いしてこの子は素直に義理の親の俺へ懐き、冒險者として生きる為の食料と安全な寝床の確保、戦闘(中でも貸し与えてみた魔導銃に対し、俺と同じようにヴァーナで適性を持っていることには驚いた)やダンジョンの罠について、俺が教えた事を次々に習得していく。月日が経つのは早いものだ、この子は一人で生きられるように育ち、俺は引退する歳にまで老いぼれた。俺はこの子に全てを教えてきたが、ついぞ自分が義理の親であることを口から教えることはできなかった。完全に情の移った老いぼれに、あの子の顔を見てそれを伝えるのは辛かったんだ。書き置きとして、義理の親であったこと、俺の全てを教えたこと、もう一人で生きていけることを繰り、自分の魔導銃としばらくは困らない日銭を置き、この時を冒險者の引退として、この子の元を去った。この様な形で最後に伝えることになってすまない、幸運を。」少女は書置を読み終え、遺された親のホルスターと魔導銃を右腰に、左腰に自分の銃を収め、歩き始めた。実の親のように自分を育てくれた、老い先短い者へ最後の感謝の言葉を伝えるために。

キャラクター名

— プレイヤー名 —

三力ミ (闇靈)